經濟論叢

第六十二卷 第四號

生産力の主體について……吉村達次

消費者活動と企業者活動(下)……森嶋通夫

京都大學經濟學會

資本の限界效率が利率變動に際して不變なる場合には資本效果及び產出（投入）量變動よりの追加的效果は消える。

結　語

ここに展開したところのものはいづれも今週についての分析である。然し乍ら所謂靜學理論が豫想を持たない主體の活動、即ち未來と切り離された現在を對象とするに反し、以上は豫想を持つ主體の活動即ち未來を考慮に入れた現在を記述する。それがあく迄も現在の分析である以上、現在と後の現在との結び付き即ち變動の理論ではない。斯くの如く豫想要素の導入即ち豫想の方法は展望的（forward looking）に行動する主體の現在の活動を分析する事を得しめるが、直に靜學理論を動學化するところのものではない。私は近い將來に市場の一般均衡及びその安定性を分析し而してその後に變動理論の舞臺に馳せ參じるであらう。尙本稿は餘りにもフォルマルに過ぎて、經濟的意味の說明におろそかであつた。此の點改めて筆をとることとする。其の他多くの不備と誤謬を含むであらう。御高敎を切願する。

（昭和二十二年六月九日）

最近になつて私はヒックス價値と資本第二版(1946)を讀む機會に惠れたが、之によると利子率の下落は餘剩の流れの平均期間を必ず延長せしめる。即ち四〇―四一頁に於て私が第一版に對して行つた批判と同じ批判をヒックス自ら第二版で行つてゐる。（昭和二十三年十月八日校正の日附記）

本號執筆者紹介

吉村達次　文部敎官（京大經濟學部助手）

森嶋通夫　京都大學大學院特別研究生

京都大學經濟學會役員（五十音順）

評議員長　靜田　均

評議員　青山秀夫
岸本英太郎
岸本誠二郎
佐波宣平
靜田　均
島　恭彥
田杉　競
出口勇藏
豐崎　稔
中谷　實
穗積文雄
堀江英一
堀江保藏
松井　清
山岡亮一

編輯兼發行人　松尾哲彥
京都市左京區田中里ノ内町一三

印刷人　鈴木直樹
京都市中京區壬生花井町三

印刷所　日本寫眞印刷株式會社
京都市中京區壬生花井町三

發行所　京都大學經濟學會
京都大學經濟學部内
振替口座大阪五〇五三九番
日本出版協會會員
番號B一一一〇五六號

發賣所　有斐閣
本店　東京都千代田區神田神保町二丁目十七番地
電話九段㉝一〇三二三番
一〇三四四番
振替口座東京三七〇番
支店　京都市左京區吉田本町三二番地

配給元　日本出版配給株式會社
東京都千代田區神田淡路町二丁目九番地

本誌の購讀及び廣告はすべて有斐閣へ御申込み下さい

（禁轉載）